

各委員からの書面による意見

第 2 回目・提出分

平成 24 年 11 月 12 日・委員会資料

双葉町復興まちづくり委員会

委員名：岩本 久人

関係機関：町議会議員

町民は町復興ビジョンを待っています。町の基本方針を待っています。住民の心をつなぐ将来の展望を示す町の羅針盤を待っています。賠償が進めば、それぞれ自分勝手に前へ進むかもしれません。役場機能や住民自治など、かまってもらえない、どうでもよくなるかもしれません。

しかし、高齢者の方、一人暮らしの方などまた双葉で暮らしていたように、一緒に暮らしたいと願っている。そういう町民の方の為、早く示さなければなりません。第2回目の委員会は、福大の先生、獨協医大の先生が加わり、論点が絞られてきました。何をテーマに話し合うのか、短期的、中長期的対策から、町民の生活再建への支援、住環境整備（町外コミュニティ）、そしてふるさとの再生等をテーマごとの部会に議論の段階に入ってもよいかと思います。選択権は町民にあります。選択肢というものを町民と共に考え道筋を立てなければ、路頭に迷ってしまいます。

町民同士の力を信じ、どのようにつないでいくのか、課題を共有していきましょう。

(2回目)

委員名：齊藤 宗一

関係機関：自治会

私は、原発事故当時の集団避難大移動行動は、さすがとたいへん誇らしく感じておりました。

しかし、遠地に長期間おりますと、子供達の将来を考え、感じさせられます。トップの早い決断が望まれます。

今般、郷里の県に戻られる決意、うれしく思います。

ただ、私共仮設（勿来）に余地があるのか、官舎、小中学校、仮設住宅などある程度長期に耐える造りで集団移動できないのか、検討できないか。

また、今後、長期になる避難生活の中、高齢者の対応として、高齢者対応施設の早期設置も重ねてお願いしたい。

早急の御検討いただきたい。

委員名：宇杉 和夫

関係機関：西安交通大学客員教授

「双葉町復興まちづくり」の進め方について

双葉町復興まちづくり委員会のこれまでの議論を基礎として、基本的な検討課題・方針の進め方についての意見です。意見の収集を重ねるだけでは発展的な展開にならない。意見の収集の前、あるいは並行しての実態・経過把握の報告（個人的な意見とは別）の必要性を重視します。また、長期的な展望・構想についての議論と、現状問題の早期必要な対策の問題は関連的であると思います。（20121014、15補足）（2. 以下は順不同）

1. 双葉町町民全体の「コミュニティネットワーク」の構築を第1に考える
（7000人の復興会議＋「双葉町（町外）コミュニティネットワーク」）
2. 双葉町持続再生の広報ネットワークの構築を重視し、検討する
（双葉郡ネットワーク＋全国広報＋国際広報）
3. 双葉町で体験してきた地域居住環境としての「（双葉町の）原風景」の価値を共有する
（谷戸里山原風景＋浜通りコミュニティ＋海岸線風景＋東日本大震災被災風景）
4. 双葉町町民の避難・仮居住の全体的経過とそこでの課題を把握する
（津波避難の記憶空間＋放射線汚染の経過の記憶空間）
（対放射線避難の経過の時系列断面）
5. 被災保障と仮居住・復興居住の早期安定化と復興目標の関係
（復興目標に関連するものと、緊急のものとの区分。復興目標の段階的確認・共有）
6. 放射線対策、除染等
（15日、本日の委員会で、木村真三委員からの報告「チェルノブイリに学ぶ福島・双葉町の現状」をお聞きしました）
7. コミュニティ対策；居住地区コミュニティ＋町外コミュニティシステム
（高齢伝承コミュニティ＋子供教育コミュニティ＋壮年ビジネスコミュニティ）
（復興・伝承コミュニティ＋支援コミュニティ）
8. 町外コミュニティシステム：「双葉町（町外）コミュニティネットワーク」＋仮の町
（「コミュニティ」とコミュニケーション：概念規定と内容の選択可能なモデル化）
（「仮の町」については具体的な諸内容の要求よりは、最初に「双葉町コミュニティ」と関係した概念規定についての議論・検討・モデル化が重要）
9. 「不地域（双葉町：これからの長い道のり）産業」・コミュニティビジネスの検討
（就業支援、NPO その他法人化等も含めた長期的な対策、主体性・固有のビジネス起業化の検討）
10. 新国土環境学習システム＋（不）地域コミュニティデザインの検討
（日本国土環境学習体制新構築の必要性＋地域コミュニティデザイン・不地域コミュニティデザイン）

委員名：高野 重紘

関係機関：町長が必要と認めるもの

10月10日夜、双葉町山田地区の住民の方より電話があり茨城県高萩市に中古住宅（土地100坪 建物40坪）を1200万円で購入することに決定したとの電話がありました。

私の意見として、大震災、原発事故後1年7ヶ月が過ぎ明確な双葉町づくりが示されない中で特に放射線が高い、山田、石熊地区の人達は県外に土地、建物を見つける計画をお持ちです。

すべて時間との闘いです。

日にちを負うごとに双葉町の住民は少なくなってしまう。1日、1時間でも早く町民の意見、提案を集約して双葉町復興まちづくり計画を発表して下さい。これがみんなの希望になります。

(2回目)

委員名：渡邊 ゆかり

関係機関：若者

論点が大きすぎて、40数名で話し合いをもっても話がまとまらないと思います。
しっかりと話を進めていくため、毎回テーマをしぼって議論するなどしても良いのでは。